

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（ 与進小 ）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・学校運営協議会で、学校が依頼する必要な支援を確認し、それを実現していくためにはどうすればよいかの熟議を行う。またその支援を行うために、自治会やPTA、民生委員、協働センターなど適切な組織に協力を依頼していく。そして、更なる充実を図っていく。
- ・地域がどう関わる必要があるか実態をふまえ「子どもたちが生きる時代、担い手から創り手の育成」をより意識し、豊かな人・物・事との経験ができるよう支援していく。そして、地域の教育力を向上させ、地域で子供を育てていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

校長の説明を聞いて、学校教育目標や学校運営の基本方針についての内容を共有し、理解することができた。しかし、熟議についてはしているとは言い難い。基本方針について、学校側の初見としてどの部分が順調に出来ている部分でどの部分に課題や力を入れたいことがあるのかを明確にしていただけるとよい。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

地域として子供たちが豊かな経験ができるような支援活動をどのように行うか話し合いはできていたと思う。一方、支援活動については、目的や支援内容など細かな部分まで熟議しているとは言い難い。また、ボランティアの募集をかけて情報を管理するのは大変な作業であり、募集方法の検討の必要がある。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

CSだよりが主な情報発信となっているが、協議会の協議結果については、直接人とつながり説明することで理解してもらえ、学校支援活動への協力にもつながった。一方、紙面上の発信のみでは、保護者、地域全体がその内容について、理解を得られているかと言え、そうではない部分もある。そのため、学校運営協議会の認知度も低いのではないかと。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・学校運営協議会の設置目的や協議すべき事項について確認をし、学校運営の基本方針や目指す子供の姿、学校の課題などから、その実現や解決に向けた取組についての話し合いを行う。
- ・学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき内容、役割分担が明確となるような熟議を行う。地域とのつながりを増やせるような支援内容を熟議し、学校と地域との関わりを増やしていく。そして、地域の教育力を向上させ、地域で子供を育てていく。